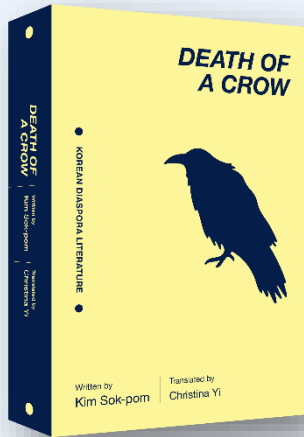


クリスティーナ・イ先生 講演会

## 「日本語」文学に対する批評的アプローチ: 金石範の作品に関して

“Critical Approaches to “Japanese-Language” Literature: On the Writings of Kim Sŏkpŏm”



1492年にスペインの学者アントニオ・デ・ネブリハは、「言語はつねに帝国の伴侶である」と述べたが、この主張は、ヨーロッパに対して妥当であるように、日本近代文学に対しても当てはまる。そうした遺産が最も明白に現れているのが、「日本語文学」—ジャンル分類として、また批評的介入の手段として使われている用語—をめぐる論争と議論においてである。その起源は在日朝鮮人作家・金石範にまで遡ることができる。日本の植民地主義政策の忘却に対する率直な批判者である金石範は、日本語に対する彼自身の鋭い認識と、その言語を強いられてきた歴史により、自身が使用する日本語は「ネイティブ」な日本語話者のそれとは認識論的に異なると主張する。本講演では、2022年に出版された金石範『鴉の死』の英訳と、いかなる翻訳行為においても考慮されなければならない、言語イデオロギーと文学カノン形成とが交錯する問題について議論する。

日時: 2023年6月28日(水曜日) 15:05 – 16:45 (JST)

会場: 早稲田大学国際文学館 地下1階

使用言語: 英語(講義) / 英語・日本語(質疑応答)

参加: 学生/教員/一般

参加費: 無料

事前登録必要(6月27日〆切) <https://forms.gle/mPz4VHwbJ8ZXgpSk8>

問い合わせ: 早稲田大学高等研究所・李珠姫 (juheelee@aoni.waseda.jp)



クリスティーナ・イ (早稲田大学訪問准教授、ブリティッシュ・コロンビア大学准教授)

コロンビア大学で博士号取得。2018年にコロンビア大学出版より『植民地化される言語——近代日本・朝鮮における文化生産と言語政治学』刊行。2019年に学術雑誌 *Azalea: Journal of Korean Literature and Culture* の在日文学特集号共編、2022年に金石範『鴉の死』の英訳刊行。



主催: スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点、早稲田大学高等研究所

共催: 早稲田大学国際文学館



WIAS Waseda Institute for Advanced Study  
早稲田大学 高等研究所



早稲田大学国際文学館  
村上春樹ライブラリー  
The Waseda International House of Literature  
The Haruki Murakami Library